

100歳おめでとうございます

桐原ツヨさん（両併一）



100歳を迎えられた、元気な桐原ツヨさん

ホームに入所されている桐原さんは、入所されている方との会話が、一番の楽しみだということです。

現在、村内の特別養護老人

HOT NEWS

南阿蘇村 ホットニュース

4月24日、桐原ツヨさんが100歳を迎えられ、同日、長野敏也村長から寿詞と記念品が手渡されました。

桐原さんは、明治45年生まれ。

桐原さんが元気な理由の一つとして、長男の敏行さんは「父が早くに他界。母は、34歳から農業と、5人の育児に励んできました。自分が頑張らなければという強い気持ちがあるので、今につながっているのではないのでしょうか」と話されました。

数々の大会で優勝

長陽中学校女子ソフトテニス部

4月7日と14日、休暇村南阿蘇（高森町）で、ソフトテニス阿蘇郡市選手権大会が行われ、団体の部（9チーム出場）で長陽中学校女子ソフトテニス部が優勝、個人の部（49ペア出場）では、同中学校の古閑・千々和ペアが優勝を果たしました。

5月3日は、大津町つつじ祭り協賛ソフトテニス大会に出場。県北部から141ペアが出場し、高瀬・野上ペアが優勝しました。

数々の大会で好成績を納めた長陽中学校女子ソフトテニス部は、「6月30日から開催される阿蘇郡市中体連をはじめ、さまざまな大会で、ベストをつくしていきたい」とさらなる意欲を話しました。



阿蘇郡市選手権大会で優勝した長陽中学校女子ソフトテニス部の皆さん

安心「のぼり旗」を寄贈

高森地区警察官家族の会

4月9日、熊本県警に勤務する警察官の家族で構成する高森地区警察官家族の会（会員80人）の大津晴男会長（第四駐在）ら3人が、「みんなであつこう 安心のまち 南郷谷」の標語が記された「のぼり旗」20本を村に寄贈されました。

この取り組みは、南阿蘇地域の防犯対策と、地域住民の意識高揚に役立ててもらうことを目的に同家族の会が企画。

「のぼり旗」を、南阿蘇村役場や高森町、高森警察署、南阿蘇管内の観光施設などに寄贈されました。

今後は、この「のぼり旗」が安全安心なまちづくりのために役立てられます。



高森警察署へのぼり旗を寄贈された警察官家族の会の皆さん

みなさんの情報をお待ちしております 南阿蘇村役場企画観光課企画係 ☎0967(67)2230

いつまでも健康で楽しく

平成24年度高齢者学級開校

4月25日、久木野総合センターで「平成24年度南阿蘇村高齢者学級開校式」および「第1回南阿蘇村高齢者学級」が開催され、村内老人クラブ会員（60歳以上）204人が集いました。

開校式では、学級長の桐原唯典さん（第二駐在）が「新たな出会い、心の健康や老化の防止にもつながります。皆さん、これからも参加してください」と、あいさつをされました。

高齢者学級では、熊本県交通安全協会、阿蘇南部地区交通安全協会から講師をお招きし、道路横断時の危険性を疑似体験できる「高齢歩行者教育システム」を活用した講習会が実施され、参加者たちは安全な道路横断法を学びました。

同学級で昨年度、皆勤賞を受賞された立野昭代さん（立野）は、「参加することは自分のためになるので、



「高齢歩行者教育システム」で歩行速度を測定する参加者

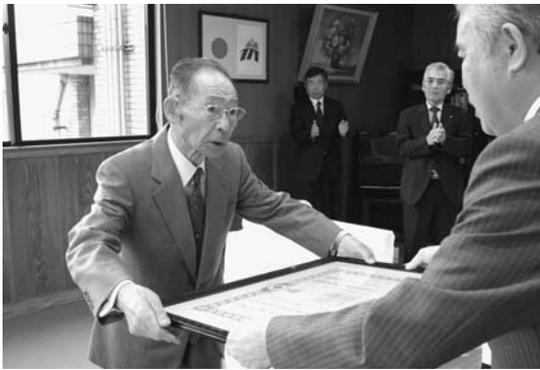
毎回楽しみに参加しています。今年も皆勤賞を目指します」と意気込みを話されました。高齢者学級は年に6回開催。次回9月26日に開催されます。

長年の教育活動に対して春の叙勲

荒牧次熊さん（第四駐在）

平成24年春の叙勲で、荒牧次熊さんが、瑞宝双光章を受章されました。荒牧さんは、昭和19年から58年までの39年間、教員として学校教育に携われ、退職後は社会福祉協議会委員、行政相談員、村史編纂委員、人権擁護委員、心配ごと相談員を務められるなど、長きにわたり教育・行政活動に尽力されました。

受賞された荒牧さんは、「賞をいただいたのも、皆さんからのご指導があつてこそ。この荣誉に恥じないように、体の許す限り努力を続けてまいります」と喜びを感慨深く語られました。



長野敏也村長から叙勲を伝達される荒牧次熊さん

甘いイチゴ美味しいね

白水保育所イチゴ狩り

5月7日から9日にかけて、一関地区の「南阿蘇ふれあい農園」で白水保育所園児131人が、イチゴ狩りを体験しました。

このイチゴ狩りは、一昨年から行われているもので、同農園の田尻徹さん（一関一）は、「子どもたちには、店頭に並ぶイチゴだけではなく、実際に実を付けたイチゴを見て欲しいと思いました」と、園児たちを招待したきっかけを話されました。

赤いイチゴを手にとった園児たちは、「美味しい」「口の中がシュワーツとする」など、満足そうに口いっぱい頬張っていました。

園児たちはイチゴ狩り終了後、ヤギの餌やりを体験。1本ずつ人参を手を持った園児たちは、恐る恐る手を伸ばしながら「こっちおいで」とヤギに声をかけていました。



イチゴを頬張る園児たち



ヤギに話しかけながら人参を食べさせる園児たち

全国ピアノコンクール出場

梶原綾乃さん(南阿蘇西小学校)



大会へ向けて練習に励む梶原綾乃さん

世紀初めまで続いた古典派音楽で、時代背景などを思い描きながら演奏しなければいけないため、練習とあわせて勉強も必要。大会に向けての練習で梶原さんは、「途中、左手の音符が増えて、早くなるので

南阿蘇西小学校の梶原綾乃さん(6年生)が、「第21回グレンツェンピアノコンクール」の全国大会出場への切符を手に入れました。
梶原さんは、熊本地区予選本選を経て九州大会に出場。優秀賞を受賞し、その中でも好成績を収めた結果、全国大会への出場が決まりました。
梶原さんは、3歳からピアノを習い始め、現在は村内のピアノ教室で日々練習に励んでいます。

難しいです。大会では、今までの中で、一番うまく弾けるように頑張ります」と、意気込みを話してくれました。
全国大会は、6月30日から7月1日にかけて、東京都(浜離宮朝日ホール)で開催されます。

全国大会の課題曲は「80・ロンド」。18世紀後半から19

思い出を刻んで全国金賞

みなさんの情報をお待ちしております 南阿蘇村役場企画観光課企画係 ☎0967(67)2230

日専連全国版画コンクール

「第21回日専連全国児童版画コンクール」で、両併小学校の辰巳緋莉さん(4年生)と、久木野小学校の藤岡蓮さん(4年生)が金賞を受賞しました。

辰巳さんと藤岡さんの作品は、約5千5百点の応募があった県の同コンクールで作品が高く評価され、今回全国コンクールに出展。同コンクールの6万点を超える応募の中から見事、金賞に輝きました。

辰巳さんの作品は、友だちと「うんてい」で遊んだことを題材にした木版画。藤岡さんは、同級生のお父さんが営んでいる飲食店で体験した「そば打ち」を題材にした凸版版画を制作。いずれも、小学校生活での体験が刻まれており、思い出が詰まった作品に仕上がりました。



「うんていで遊んだよ」

辰巳 緋莉さん(両併小学校 当時3年生) 受賞したことが信じられませんでした。家族から「隠れた才能を持つてるね」と言われ、とてもうれしかったです。



「のびろのびろそばのきじ」
藤岡 蓮さん(久木野小学校 当時3年生)
友だちの楽しそうな顔が印象に残ったので作品にしました。「歯」を細かく切り取る作業が難しかったです。

優しさいっぱいの花を咲かせよう

「人権の花」伝達式

5月8日、中松小学校（古澤広義校長）で、「人権の花」伝達式が行われ、全児童84人に花の種や立て看板、各学年のプラカードが、村人権擁護委員会から手渡されました。

この運動は、児童たちが協力し合って花を育てることで、思いやりの気持ちや感謝の気持ちを学ぶことを目的に、人権啓発運動の一環として、昭和57年度から実施されています。

今回贈られた花の種は、ヒマワリ、マリーゴールド、サルビア、ペチュニア、百日草、コスモスの6種類。

花の種を受け取った児童を代表して渡邊真由さん（6年生）が、「各学年で種を撒き大切に育てます。そして種を付けた風船を飛ばすことで、私たちの優しさが全世界に伝わることを願います」と誓いの言葉を述べました。



立て看板やプラカードを手渡された児童たち

今後は、11月に収穫するこの花の種とメッセージを付けた風船が大空に飛ばされる予定です。

「寒いく」だけど楽しいね

両併小学校プール開き

5月11日、両併小学校（坂梨正文校長）で、プール開きが行われ、全校児童33人が一足早い夏を迎えました。

同小学校では、梅雨の影響で水泳の授業日数が減ることを考慮して、毎年この時期にプール開きを実施。県内では最も早いプール開きとなりました。

プールの水は近くの農家から提供された地下水を使用。この日は晴天に恵まれ、絶好のプール日和となりました。

準備運動の後、プールに入った児童たちは、「冷たい」「寒い」と震えながらも、楽しそうに泳いでいました。

2年生の小出拓歩くんは、「今年は25メートルを泳げるようになりたい」と目標を話してくれました。



円を描きながら楽しそうに泳ぐ児童たち

心通った1泊2日

修学旅行生民泊体験

例年行われている修学旅行生の民泊体験。今年も4月23日から5月18日にかけて、岡山県や香川県など5つの学校から中学生や高校生約330人が村を訪れました。今回受け入れた家庭は延べ81戸。

5月9日から10日は、香川県亀丸市立南中学校から80人の生徒が訪れ、21戸の家庭が受け入れられました。4人を受け入れた長崎幸徳さん宅（第三駐在）では、田植えや、馬の世話を体験。一晩過ごした生徒たちは、「初めは不安な気持ちでしたが、『ばってん』『よかよか』など方言を教えてもらったり、牛にも名前を付けさせてもらい、とても楽しかった。今は帰りたいありません」と話していました。

離村式では、家族のようにうちとけ合った受け入れ家庭と生徒たちとの間で、別れを惜しむ姿が多く見られました。



手を振り見送る受け入れ家庭



長崎さん、馬の親子と記念撮影



離村式で記念撮影